長岡京ケアハートガーデングループホーム西山の郷（たけ）

地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ▒ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・「個人の尊厳を大切に」「画一性、押し付けの排除」「地域社会との融合を図る」の理念のもと、お一人おひとりの尊厳が何よりも大切にされることが願われ、地域の習字や絵の先生がﾎﾞﾗﾝﾃｨｱとして関わってくださり、その方の意欲や個性の輝きを引き出して下さったり、幼稚園児の訪問による交流、キャロリング等音楽による楽しく癒される時間が提供されながら暮らしが支えられている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・管理者とﾘｰﾀﾞｰによるﾘｰﾀﾞｰ会議により、理念に基づく実践によるｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ創造に戻ることを常に模索している。ﾘｰﾀﾞｰとしてﾕﾆｯﾄ会議においてお一人おひとりの、ｱｾｽﾒﾝﾄ、ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ、援助計画等具体的な理念の実践に向かう時間をもって、具体的な日々のｹｱの実践に結んでいる。	○	お一人おひとりの尊厳を大切にする理念の深まりをｾﾝﾀｰ方式を取り入れ模索を始めている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	・運営推進会議は、地域の方々に理解と共に課題に対しても共に考えて頂く場になっており、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑの理念の大切さを感じて頂けるようになってきている。ご家族とは、援助計画、評価をお伝えしながら、心身両面についての現状の理解と今後への歩みの模索を共に考えて頂ける関係を築きつつある。	○	重度化、認知機能の低下の現実からﾀｰﾐﾅﾙｹｱの理念と認識への模索を始めている。
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・散歩時にはすぐご近所の方に、「おはようございます」と笑顔で交換している。体調を崩して外に出られない時、「あの方、しばらく見かけないようですが、元気にしていらっしゃいますか?」等心配しての声かけ、コスモス畑での花摘みを提供、お隣の畑で取れた野菜を皆さんにとくださったり等日常的な付き合いができるように関わりを大切にしている。ご近所の歯科医院、整形外科医院での受診時はDrや看護師の皆さんが、利用者さんが安心して受診できるような配慮と共に温かく見守ってくださっている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・小学校の運動会、長岡京市文化行事、ガラシャ祭り等へ積極的に参加し、楽しんでいる。またカトリック幼稚園の子どもたちと七夕祭り、勤労感謝の日等小さな子供たちとの交流は、お互いが存在を大切にする時間となっている。やすらぎ支援員講座受講者、地元中学生実習の受け入れも大きな地域との発展的交流につながっている。		

長岡京ケアハートガーデングループホーム西山の郷（たけ）

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・地域における研修会への職員の参加、長岡京市の安らぎ支援講座受講者の実習を受け入れ等により、地域の有識者、体験者の方にも実体験をして頂き、高齢者を支えていくことへの模索を地域と共に考えさせてもらっている。		
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・外部評価の実施を通して、自己評価の視点不足等の改善に努めている。具体的な改善点として、水分の補給の回数の増加、家族さんとの関わりをさらに大切にしていく等している。	○	職員一人ひとりが自己評価という視点を持つことにより、理念の理解につなげる。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2月に一回運営推進会議が開催され、ユニットとしての現状を報告させてもらい、その場で聞かせてもらう意見や情報を大切に活かしている。重度化に伴う、ターミナルケアを含めた今後の課題をご家族の方のお気持ち、様々な視点を頂きながら利用者さんへの還元を大切にしている。	○	運営推進会議での検討内容がスタッフ一人ひとりのケアに十分生かされるように、議事録の提示の仕方にも工夫していく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・管理者よりの市町村との連携の現状をその都度分かち合ってもらっている。地域とのつながり・・・安らぎ支援の実習等で実習生の様々な経験等分かち合ってもらったことをケアの中に取り入れる等・・・スタッフの視点の広がりとサービスの質の向上に結んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・実際に利用者さん本人が決定できない入院、今後の心配等の課題や問題に向き合いながら親族のご事情等も含めて、より良き解決のために権利擁護に関する成年後見人制度の認識を深め、見守ることに努めている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	・職員は外部研修を通して虐待防止法等、認知症ケアについて学んでいる。利用者さんを受け止めきれない未熟な気持ちを抱えながら、そうした気持ちを家族や職員がひとりで抱え込むことなく、共に分かち合い、主治医、専門医のアドバイスを頂きながら、ユニット全体として気持ちを一つにして虐待防止につなげ、入居者さん、職員が共に守られることに努めている。	○	利用者さんへのケアの気持ちが届かないことから相手に変わってもらう方法を求めることなく、自己覚知に向かう中でことばを含めた虐待を防止し続ける。

長岡京ケアハートガーデングループホーム西山の郷（たけ）

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・管理者が入居希望の家族との出会いの中で、家族の不安や気持ちを受け止め疑問に応えて、入所への意志を確認、後、ﾕﾆｯﾄﾘｰﾀﾞｰ、職員同席のもと事前評価等の取り組み、そしてご本人のお試し入居へと、安心し、無理なく入所して頂ける関りを大切にしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・入所してしばらくは、生活環境、生活習慣の違いにより、ご家族に訴える気持ちの不安、不満等も多く、その時こそ真摯に一つ一つ、一回一回の話をよく受け止め、運営に反映できるように努めている。慣れ親しんでいく生活の中では、日ごろの困惑をできるだけ早く吸い上げ、改善と新たな創造につなぐことを大切にしている。	○	直接的な不満の言葉ではなくても、利用者さんが困っていること分かってほしい気持ちを本当に受け止め、運営側に提言、反映につなぐ職員に成長。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・ご家族のご意見を聞き生活援助計画を立て、実践、評価、報告を大切にしている。金銭管理は、預かり金の減少に伴い、1ヶ月に1回報告している。また、ご家族の来所時に現状を報告し、特変事態(体調変化による）通院がある時は個々に電話等で状況をお伝えし、確認、ご協力をお願いしている。	○	低下に伴い、身体的な変化等、家族にとっても今後はどのような状態になっていくのか、次なるステップへの不安を抱えておられる。それはターミナルケアの課題でもあり、ご家族や他職種の協力を仰ぎながらターミナルケアの理念の浸透と実践できる運営体制を整えていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・何よりも、ご家族との率直なｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝができるように努め、意見等に対してはできる限り迅速に応じることに努めている。すぐに解決できない課題等、ご家族に運営の考え方と対応の仕方をご理解していただきながら、安心できる解決と創造に努めている。入浴がご家族でなければできないことによるご家族の負担等、職員の介助による入浴に移行につなげたり、また、徘徊のある利用者さんが玄関に鍵をかけてないということでの心配に対して、理念のご理解をいただきながら、ｽﾀｯﾌの見守りの徹底、夕方の玄関施錠の確認等、ご家族に安心して頂いている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・様々な事情での退職等により、在職職員の過重負担、利用者さん重度化による身体的、精神的両面での低下における医療との連携における課題等に対して、その都度の対応と解決につなげている。	○	身体機能の低下により繰り返し起こる医療との連携の課題に対し、職員の安心、安全が保たれながら、よりよいｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ創造へのﾓﾁﾍﾞｰｼｮﾝを保てる医療連携等の中期長期のビジョンを描き、実践への道をつける。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・利用者さんの身体機能・認知症状の低下など重度化の進行に伴い、一人の利用者さんへの介助時間が長くなり、他の利用者さんへの介助時間が減少したり、職員の在場時間が長くなることがある。利用者さんのお気持ちや安全を何とか守らせていただきたいと、ﾕﾆｯﾄの中で、時にはﾕﾆｯﾄを超え全体の協力のもとで勤務調整をしている。	○	利用者さんの重度化に伴うケアのあり方の課題の明確化と新たな勤務原則等の創造を考えていかなければならい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・職員の異動で利用者さんへのケアの質の変化、ダメージを与えないように、経験者の同伴研修等、理念に添い一貫したケアが保たれるように努力をしている。何よりもチームケアが大切であり、職員間の気持ちが一つになることにより離職も最小限に抑えたいと努力をしている。	○	職員が定着することで、理念が深まり、お一人おひとりの尊厳を大切にしたケアの本質が深まることで、魅力ある職場作りにつながり、更には職員の成長に繋がるｻｲｸﾙの確立。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員の勤務体制の制約の中で、様々な研修の情報の提供をもらいながら、職員個人の意志や希望により研修参加している。ユニット会議で研修の報告の分かち合い等で日常へのケアに生かすように努めている。	○	職員全員が定期的な研修体系に組み込まれるしくみが模索を続ける。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・毎年、長岡京市の主催である「やすらぎ支援員」の講座実習生で、現役同業者、経験同業者が当施設に実習生として来所という交流も大切にしている。他事業所を含めた全社的な研修を通して、他事業所の職員の方との交流や情報や智慧の交換の場もある。	○	自分たちの職場の向上のためにも、年々利用者さんの重度化、機能低下の実態に向き合い、理念に沿ったケアをしていくためにも他の同業者との交流の中で違いの中に質の向上をめざす。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・職員が休憩できるように、休憩室等は準備されている。福利厚生として、職員にポイントが供給され、買物、旅行等に使用している。全スタッフ間の交流の場として、いくつかのｸﾞﾙｰﾌﾟに分かれて、職場ﾚｸﾚｰｼｮﾝがある。ﾕﾆｯﾄ独自として時間外に、1,2ヶ月に1回の交流会を持っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・お一人おひとり、一回一回が違う出会いや出来事の連続の日々であり、職員の問題意識を何よりも大切にしている。率直な問題意識が向上心に向かい、同時に、資格習得への挑戦(ﾎｰﾑﾍﾙﾊﾟｰ2級、介護福祉士等）へと励まし、そのための勤務調整もお互いに協力している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・利用者さんの不安な気持ち、何を求めているのか、日々の生活の出来事を通して、居室で一人になる時間等、良く傾聴する時間を持ち、信頼関係を築きながら、肯定的な関りに努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・入居時に家族の疑問、不安な気持ちを聞き、受け止め、お応えできるように努力をしている。また面会来所時にも些細なことであっても聞かせてもらいながら、援助計画に反映できるように努めている。認知障害の低下はご家族にとって認めがたい状況もあり、そのご家族の気持ちを傾聴させてもらい、より良きｹｱを共に考えられる信頼関係を結べるように努めている。		

長岡京ケアハートガーデングループホーム西山の郷（たけ）

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談を受けたときは、よく傾聴させてもらい、何を支援させてもらうのか、明確に速やかに対応できるように努めている。何よりも今までの利用者さんの趣味等、なじみの生活が大切に継続されるように支援に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・本人の思いや傾向を大切に利用者さんが生活に慣れてもらうように職員が関りに努めている。入所したばかりの時は、緊張感や戸惑う気持ちで一杯であり、家族がよりどころとなっているので、家族に話している気持ちに添えるように関りを持ちながら、本人の望んでいること等の傾聴、家族と相談する等努めている。（他者とのこだわり、自由にならない買物等への気持ち・・・）		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・人生の大先輩であるお一人の人間として生きてこられたその道のりに畏敬の念をもって出会うことに努めている。今までの体験や思い出等、生活の一こまの中に、特に散歩や、入浴等時を介在に、妻として、母として、働く女性としての生き方等喜怒哀楽と共に、様々な角度から学ばせていただき、お互いが支えあい、深まりあう関係に努めている。	○	お一人の人間が人生の途上で認知症という条件を抱えてはいるも、同じ人間として共に学びあい支えあう大切な時と場である関係を深めていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・来所時等にご家族の立場、思いを聞かせて頂き、受け止め、支援されてこられた喜怒哀楽の歩みを聞かせてもらい、また当所での現状の変化への対応等、一緒に考えて頂き本人を共に支えていける信頼関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・ご家族との出会いは、今まで見えていなかった家族との関りを知り、また、認知症の介護職員だから見える日々の様子を話させてもらったりする中で、一緒に支えていく思いが強くなり、それがご本人とご家族のよりよい関係を築いていくことにつながっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・可能な方は年一回の小学校の同窓会、年に数回娘氏宅に行ったり、時ある毎に友人知人にはがきを書いたりする習慣を大切にしてもらっている。 ・神社等参りをずっとされていた方には毎朝の散歩として神社参りが継続されてきたが、今夏は体力が続かず中断している。 ・あまり外出はされない方は、今まで培ってきた技術（編み物、百人一首等）、習慣（読書、新聞読み）等大切してもらうように努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・生活環境の違い、考え方の違い、機能の低下の違い、そうした違いに悪気なく反応されることが多く、時々トラブルとなることがあるが、正邪、善悪で判断することなく、お互いを受け止めあえるように職員が介入しながら、支えあうように配慮している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・自立に向かい、2007年1月に退所された方は、近くのﾏﾝｼｮﾝで家族の支えも受けて、一人暮らしを始めた。2年を過ぎたが、家族との絆を深めつつ、今でも、顔を見せにきたり、職員との出会いを大切にしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
１．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・お一人おひとりの一日の体調、気分、培ってきた生活習慣等違いが様々で、同時に全てを満足していただけるような関りはできないが、できる限り本人本位を大切に検討している。他者をお世話をしたいと食事時等手伝いがんばる意向はあるも身体には過重負担になることもあり、本人の意向を大切にし、体調への配慮見守りに尽くしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・日々の出会いの中で、過去のことを聞かせてもらうことも多くあり、その中で好き嫌い、趣味、家族関係等これまでの暮らしを受け止め理解させていただき、ご本人を知ることとケアに向かう大切な情報となっている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・朝のバイタルチェック、入浴時の身体変化のチェック等を行いながら、何よりも身体機能の低下を防止できるように工夫をしている。 ・歩行力、排尿、排便力を保てるように歩行時の歩き方、ﾄｲﾚ誘導による排尿を促し、また生活の中では他のために役立ちたい気持ち、調理や後片付け手伝い、好きなことに向かう集中力の保持等総合的に把握し、日々活力に結べるように努めている。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	・ご家族の方にも現状をお伝えしながら、ご意見もお聞きしたり、月一回のﾕﾆｯﾄ会議におけるケアカンファレンスによって、職員の意見やアイデアを確認し、それらを援助計画に盛り込んでいくことを基本に作成している。	○	職員の一人ひとりが利用者さんの介護計画の大切さと関心を深め、援助計画を作成できるように成長していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・援助計画の実行は最低3ヶ月ごとに見直し、ｱｾｽﾒﾝﾄ、ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ、評価を行い、次なる援助計画の作成に努めている。特別な変化（入院等）の場合は、その時点で現状に即した介護計画の作成に努めている。家族の意向、主治医の視点をもらいながら、ｾﾝﾀｰ方式を取り入れる模索もしている。	○	ｾﾝﾀｰ方式の導入。

長岡京ケアハートガーデングループホーム西山の郷（たけ）

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々、一人ひとりの様子やケアをｹｰｽ記録として残している。その記録を元に、アセスメント，モニタリングとして記録に残しながら次なる援助計画に向かっている。記録と同時に日々のお一人おひとりの申し送りは職員のｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝと実践に結ぶものとなっている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・当所では、居宅訪問ｻｰﾋﾞｽがあり、ﾎｰﾑﾍﾙﾊﾟｰ、ｹｱﾏﾈｰｼﾞｬｰも在籍し、在宅での智慧、他施設の智慧を教えてもらったりすることができる。利用者さんの状況に伴い、歩行器、徘徊防止ｾﾝｻｰ等福祉器具の情報提供、導入使用に繋げている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・現時点では、習字が好きな方が、地域の習字の先生に習字を倣ったり、絵の好きな方が絵を倣ったり、地域の高齢者のバンドの訪問等、地域のボランティア等に協力を頂き充実した生活の支援につなげている。また、年2回の避難訓練における消防との連携は安心安全への協働となっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・事業所内のｹｱﾏﾈｼﾞｬｰの紹介で、福祉用具のｻｰﾋﾞｽのベッドの手配、夜間転倒防止のために起立時に徘徊防止ｾﾝｻｰ使用により動向の確認への提案、また大腿部骨折後必要になった障害者手続きの助力等のｻｰﾋﾞｽとの連携支援につないでいる。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・ご家族さんはできるかぎり、当ﾎｰﾑで過ごすことができることを願っている。病気等で長期入院になった時等への心配もされておられ、運営推進会議、家族さんとの交流会に地域包括センターの方の出席を頂いて、長期的なﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄをしてくださるシステムがあることで安心する。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・基本的にはご本人・ご家族の希望のかかりつけ医の受診体制が整備され、安心して受診してもらっている。心身の現状の把握と今後に受けてのケア等つながれている。		

長岡京ケアハートガーデングループホーム西山の郷（たけ）

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・ご家族の判断等、特に認知症専門医等の受診支援は受けていない方も多いが、利用者さんが今までの関りも含めて個人的に通院されている方もおられる。当所では専門医との関わりも築きつつあり、利用者さんの状態の変化等に対してのケアの相談にのって頂いている。また、認知症専門医の研修会等への参加により、職員の認知症理解やケアの深めに役立てている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・訪問看護の実施希望あるも現時点で実現に至らず、当ホームの看護師に日常の健康管理や受診の判断及び医療活用の相談をしている。 ・緊急時や特変時はそれぞれのかかりつけ医、またはその医院の看護師の連携の中で医療管理をしてもらっている。	○	訪問看護ステーションとの契約のもと、24時間オンコールで全員の利用者において医療管理体制とする（現在は必要と感じているご家族のみ）
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院された利用者さんには、退院後の生活がよりスムーズになっていただけるように、見舞いに時々行く。利用者さんが長期入院になった時にご家族も、病院のDr.も帰るところを心配され、入院中にそういった問い合わせも実際にあり、双方で現状を確認し退院後のケアを含めて情報の交換をする。また、ご本人の治療拒否で退院になった方もあるが、その方の関り方については地域医療相談でアドバイスを頂く等医療機関とも連携をとっている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・ユニットにおいては終末期を迎えた体験はない。しかし、重度化が進み身体機能の低下等常に予断は許されない状況は、現時点から終末期へ繋がっていると思っている。ご家族の方の今後の考え等を聞かせて頂きながら、医療の助力や支えをもって、人生の結びの時を最後までその方の尊厳を大切にできるケアを模索している。	○	重度化、ターミナルケアについては、身体介護と共に精神的な課題が多くある。また、お一人の課題は、他の利用者さんの介護に充分な配慮ができなくなる恐れもあるが、同時にその課題に取り組むことによりケアの土台が創られていくことが大きな可能性であり、運営も含めて、より確かな方針の打ち出しと共有が必要である。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・現時点では、皆さんお元気に過ごされておられるが、重度化に伴い、ご家族、ご本人の気持ちを考えた時に、何とか、どうにかして最後までのケアをさせていただけないかという職員の思いである。 ・様々な課題があり、チームでの支援の取り組みとしては、職員の意識の深まりを大切にしている。	○	職員の気持ちとして、利用者さんには人生の終末期を本当に大切に過ごしていただきたいと願っており、職員の意識の深まりと正しい終末期ケアを学んでいく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・この1年では住み替えの利用者さんはおられない。一昨年1月に退所された方については退所にあたって、ご家族の考え、本人の気持ちををしっかりと伺い、情報の交換の中から、近くである現住所地となり、今も職員が気遣いをし、関係を大切にしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1．その人らしい暮らしの支援				
（1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・お一人お一人の誇りやプライバシーを大切にした言葉遣いや対応を心がけている。お一人の言葉や動作の中にその方の人生の歴史が刻まれている。それらの重さを大切にしたいと願い、傾聴し、その方の理解につなげている。その方の存在の肯定を何よりも大切にしている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・何よりも利用者さんお一人おひとりの表現を受け止め、納得して次の行為に結べるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを大切にしている。例えば体調のｺﾝﾄﾛｰﾙがしっかりできない状況にありながらも、台所仕事はどうしてもしたい気持ちになる方、気持ちを何よりも大切に、体調の調整はｽﾀｯﾌが見守りながら行う等、一つ一つを納得しながら生活していただける様に支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・「今日は何をしてくださるんですか。」「今日は歌を歌いたいです」「百人一首をしたい」「家に帰らにゃあいかん。」「手伝わずにはおれん」お一人おひとりの思いとことば、自由に動けなくて何をしたらよいかわからないと訴える方、あまり皆と合わせるのは苦手の方、気持ちと現実の隔たりがありつつも、何よりも安心できる居場所を求めておられるお一人おひとりの思いと安全を願い、日々の流れを生活の中心におき、無理なく形に結んでいけるように支援に努めている。ｹﾞｰﾑをしている方もいれば、その場にいながら新聞を読む方、また入室してTVをみたり、ごろ寝をしたりする方、バラバラでなく、安心してそれらができる環境の創造を大切に支援し、見守らせて頂いている。	○	身体介護の時間の増加の中で、お一人おひとりとのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ等関わりに十分な時間がとれないことも多々あり、理念を重んじるとグループホームの基準上の適性人数、配置が今後の課題に思える。
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	・自己決定できる方は、外出時、来客時、お稽古時等には化粧、服装の整えをしてその時と場を大切にしている。美容院等に行かれたりしている。その他の方は、月一回は美容師さんが訪問してくださり、その方に似合ったカット、顔そり、爪の手入れ等もしてもらっている。 ・起床時、入浴時には身だしなみ、服装等一緒に整えている。。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・昼食づくり、夕食作り、時間になると、必ず台所に来る方、「何か手伝います」と申し出る方、そんな様子を見て、自分も何かできることを思われ自己表現が得意でない方も参加への意欲を示している。器用に平等に盛り付けをされる方、何よりも安全に配慮しながら、無理のないように、休憩時間を取り入れながら行っている。後片付けも自主的にされ「しんどくなったら変わってくださいっていいますからご心配なく」等、コミュニケーションも多くなることにより、食事時は楽しみな時間になっている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・おやつ時間の他に、間食の習慣がある方、ない方、ご家族が持ってこられる好きなもの、手元におやつがないからと近くのショップに買物に行く方、お茶の好きな方、それぞれのペースを大切にしている。おやつに関しては、ご家族よりおやつの内容や、賞味期限等確認させてもらい、何より安全に気をつけながら支援している。	○	今後の課題として、重度化に伴い嚥下状況の変化による食事中のむせこみ、咳き込みも見られ、ご本人が周りを気にされることがあり、安心して食事の時間を過ごせるように状況把握を常に努め、好みのもの、食べやすい形態等きめ細かい個々への配慮を考えていく。

長岡京ケアハートガーデングループホーム西山の郷（たけ）

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・ﾄｲﾚ通いが頻回の方、排泄回数が少ない方、尿意、便意がはっきりしない方等は、それぞれに応じ、水分チェック、排泄チェックをしながら、出来るかぎり自力排泄を促すように2時間おき、起床時・就寝前等決めて支援している。何よりもその方のADLの状態もあり、羞恥心には最大限の配慮をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・時間や順番などのきまりはなく、毎日が入浴可能日になっている。入りたい時に入れるように、一回一回一人ひとりの気持ちを大切にしている。 ・排泄状況、体調への配慮をしながら、身体の清潔保持、心身のﾘﾌﾚｯｼｭを大切にしている。入浴時も利用者さんとのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝをとりながら努めている。	○	入浴を嫌がる背景の理解や羞恥心の課題を含め、その方に快く入浴をしてもらい心身のリフレッシュを感じてもらえるような関わりの模索。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・季節により体調が異なる方、冬場は咳がでやすい方、日中どんどん食事のお手伝いをやって後で疲労してしまう方、日中の休息のﾘｽﾞﾑをとってもらう等の支援も大切にしている。冬になって夜間の失禁が目立ち始め、羞恥心でそれを隠してしまうこともあり、安眠の妨げにならないように時間を見計らい、夜間にﾄｲﾚ誘導を試みている。 ・夜間歩行不安定な方は転倒防止のためにﾅｰｽｺｰﾙや、徘徊防止ｾﾝｻｰ等使用し、ﾄｲﾚ誘導、見守りの徹底により安眠につないでいる。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・編み物、習字、絵を描くことが大好きだった方、合唱をしていた方、主婦としての台所仕事、片付け等、日々の生活の中に取り入れている。歌が好きな方は歌ビデオに集中し、手拍子をたたきながら歌ったりして集中、充実した時間をすごしている。台所仕事は年齢を重ねても女性にとっては張り合いのある仕事となっている。 ・一人で外出は困難なことが多く、室内での生活が中心になりがちで、「息が詰まりそうだから外へでたい」と希望される方もあり、安全を守りながら近回りの散歩等できる限りは外出に結んでいく。天候により外出が困難なときはドライブに出かけたり気分の転換を図っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お金の個人管理は紛失等の恐れがあり、ご本人より保管をしておいてほしいとのことから、職員が管理し、必要に応じて個人が出費している。一人での支払いが無理な場合は職員が変わりに手伝い、常に収支を出納帳に記入している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・天候のよい日は毎日朝の散歩を希望、近回りの散歩を実施支援している。花のみずやり、近くのお店への買物、郵便局へ手紙の投函、その日その日の希望で戸外での活動も大切にしている。庭のﾃｰﾌﾞﾙでゆっくりとくつろぎながらお茶の時間も持つように努めている。 ・季節に応じて、近くの神社への花見(初詣、梅、桜、紅葉)、ｺｽﾓｽ畑への散歩、ﾄﾞﾗｲﾌﾞでは四季折々の景色を楽しんでいる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・おやつを買いに出かけるのも楽しみな外出となっている。 ・ご家族との外出、外泊もご本人のお気持ちを大切に支援をしている。ご家族とカニ外泊ﾂｱｰに行ったりしている。 ・2,3ヶ月に一度は外食をこころがけている。大好きな握りずし、回転寿司に行くことが大きな楽しみになっている。 ・バーベキュー、みかんがり、市民祭り等への見学・参加等している。		

長岡京ケアハートガーデングループホーム西山の郷（たけ）

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・携帯電話をもってもらい、家族とよく電話で話されている方もおられる。電話で体調の不良を伝えたりすることは職員も確認しご家族とも確認している。ご家族や友人にはがきを書きたいと、はがきの購入、投函等見守っている。ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝをはかり、その方の習慣を大切にしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・ご家族、友人がこられた時は居室に入って頂いてゆっくりしていただき、お茶をお出ししている。お昼ごはんを一緒にされたり、おやつを一緒にされたりしながら楽しいひと時を過ごしてもらっている。遠くから来られるご家族で一緒に泊まりたいと希望される時は、貸布団の準備もさせてもらい、一緒に過ごしていただくことを大切にしている。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	様々な面での身体拘束をしないケアに努めている。骨折し、歩けない方は車椅子での移動中心の生活になるが、移動時のみ車椅子使用。テーブルに着いた時は椅子に移乗してゆっくりとしてもらっている。	○	言葉での拘束への配慮として、定期的な「自己チェック」を実施し自分の言動を振り返り、自己覚知を深めていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・職員同志が常に鍵をかけないｹｱについての話しあっている。人員配置の制約上、徘徊のある利用者さんに目が届き難いこともあるが、安全の見守り、所在の確認徹底をはかっている。外に出たいお気持ちを抑制することなく応えられるようにｽﾀｯﾌの配置も試みている。内に閉じ込められているような感覚での安全確保の弊害を理解し、外出ﾀｲﾐﾝｸﾞ、内と外の生活のﾘｽﾞﾑを模索し、外界に触れる喜びを感じてもらえるように支援している。すぐに希望に添えないときは、きちんと今の状態を説明し、約束を守る信頼関係を築きながら待ってもらったりすることもある。	○	徘徊のある利用者さんが、外で自由に歩くことができる生活の充実と共にﾚｸﾚｰｼｮﾝ等内なる充実した生活をもっと見出していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・日中においては必ずフロアー担当が見守り、所在の確認の徹底、転倒防止等安全の確認見守りを徹底している。 ・夜間は巡視の徹底と、利用者さんの希望に応じてナースコール、転倒防止のために徘徊防止ｾﾝｻｰを設置する場合もある。	○	重度化に伴い夜間時における急変等への速やかな対応がしていけるように、職員の研修も深めていく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・調理時、包丁使用や、調理器具の使用には包丁の扱い等の危険が伴うので、見守りを徹底している。また手芸、工作等ではさみ、針等使用するときも見守りを徹底している。異食防止の徹底にも努め、食器等を利用した花生け、洗剤を目の届かない場所に置く等を試みている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員が危機意識を持ちながらも、押し付けや圧迫感を与えずに利用者さんを守ることを心構えとしている。小さな出来事であっても、「ﾋｱﾘﾊｯﾄ」として職員全員で共有、事故防止の徹底に努めている。事故が起こった時は事故報告書に記入、再発防止につなげている。		

長岡京ケアハートガーデングループホーム西山の郷（たけ）

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・緊急ﾏﾆｭｱﾙを常時ｽﾀｯﾌﾙｰﾑに掲げてあり、職員同士で確認している。また、他ﾕﾆｯﾄの方で緊急事態発生時の様子も朝礼等で共有してもらい応急手当、初期対応への自覚が日常的にも深められるようにしている。救命講習も受けることになっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・災害マニュアルの確認と共に消防署の協力を得て避難訓練を年2回、昼間帯、夜間帯で実施している。利用者さんお一人おひとりの状況に合わせて、職員が避難の順番等を確認している。施設管理者が、地域に協力をはたらきかけている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	・転倒の恐れのある方、歩行困難な状態の方、一人ひとりが病気、怪我へのリスクを持っていることを、ご家族来所時には現状として伝え、一緒に考えてもらい抑圧感のない安全で安心のある生活に心がけている。	○	重度化に伴うﾘｽｸも大きくなり、ﾀｰﾐﾅﾙｹｱの課題と共にご家族と今後の方向性を確認させて頂きながら、利用者さんの尊厳が守られる落ち着いた対応に結んでいく。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・朝のバイタルチェック、入浴時の身体変化のチェックを行う。異変については状態を適確につかみ、冷静に迅速にかかりつけ医への連絡指示を仰いでいる。体調の変化については、職員全員が同じ認識に立ってケアに向かえるように申し送る。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・お一人おひとりの持病と服薬の目的、副作用等を理解して職員が管理を行っている。 ・短期に服用する風邪薬等は、改善等症状を見ながら、かかりつけ医の指示を確認し服薬。 ・処方箋管理表及び服薬管理表の徹底記入をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・重度化と共に自力排便の困難な方も増えて、かかりつけ医より緩下剤使用の方も多くなっている、そのお一人おひとりの状態をみながら、水分の摂取、繊維の多い食べ物の提供等の工夫をしている。また適度に身体を動かす等により便秘を予防している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・嚥下時にむせ込みのある方等は、毎食後の口腔ケアにより口腔内の清潔を保持している。また、口腔ケア時に義歯の状態を見守り、必要に応じて受診につなげている。		

長岡京ケアハートガーデングループホーム西山の郷（たけ）

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・栄養管理については栄養士がサポートしている。お一人おひとりの状態や体調による個人差を鑑みながら毎回の食事量を記録し、習慣、好み等も考慮して、できるだけ刻む等の工夫もして食べ易く、バランスもよい状態で食してもらえるように支援している。適切な運動量の確保による相互作用を心がけている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	・感染症へ予防として、散歩等外出よりの帰所時は、手洗い、煎茶によるうがいの励行をしている。また食事、おやつ時の手洗い、ウェルパスでの消毒等行っている。手摺、ドアノブ、トイレ、洗面所等、指定されている消毒剤で毎日消毒している。 ・トイレ時は、トイレ専用のエプロン、手袋の使用しての介助をしている。 ・感染症発生時の対応として、マスク、手袋、エプロン等を常時準備している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・日中、食器等は洗いの後、85度の乾燥機で乾燥している。週一回は食器を希釈塩素剤で消毒している。夜勤帯において、一日一回、調理用具を希釈塩素剤で消毒をしている。 ・食材については日々青果店、精肉店等より配達してもらう新鮮で安全な食材を早期使用をしている。消費期限使用は徹底されている。そのチェックを毎日行っている。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （１）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・利用者さんが何よりも生活感があり、気持ちに落ち着きと安心感がもてるような庭先になっている。家族、近隣の方々も入りやすくなっている。玄関ドアもガラス張りで明るく親しみやすくなっている。洗濯物干し場、玄関周りには四季折々に利用者さんが草花をプランターに植えられ生活感あり、、テーブルやベンチを置いて、ティータイムも楽しむことができ、通りがかりに挨拶や声かけも多く親しみやすい空間になっている。	○	課題としては、かなり交通量の激しい道路に面しており、庭先の広さをもう少し確保でき、更なる安全への整備をしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・1Fは玄関とつながっており、玄関内の棚には季節の花が生けられ、置かれたソファーに腰をかけてゆったりとできたり、外来者に親しく接する機会も多くあり、自由な行き来は、家庭的な空気をかもし出している。 ・居間・兼食堂はスペース的には狭さを感じることがあるが、テーブルの配置を工夫したり等、共有空間に暖かさと居心地のよさを感じさせている。 ・大きな浴槽は、ゆったりと入浴を楽しむことができ、介助を通して、利用者さんと親しくコミュニケーションをとることのできる場となっている。	○	1階のトイレは、使用者数も多く、使用頻度も多いので、換気、清潔感の保持が常に課題となっている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・居間のテーブルの配置を変えたり、食事の時以外は、利用者さんが、その都度、自由に好きな席に座って好きなことをしたり、また何人かが集まってゲーム、合唱等したりしている。同じ空間にいながらもそれぞれがしたいことをしていても違和感がなく、穏やかで落ち着く空間と、元気で明るい空間を皆さんが作り出しておられる。疲れた時等、自分の体調や気分も大切にされて、一人になりたいときは居室でゆっくりとされている。お一人おひとりのこうした居場所を大切にして頂くために、職員は常に見守りも関わりへの配慮をしている。		

長岡京ケアハートガーデングループホーム西山の郷（たけ）

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・畳の上にふとんを敷いて就寝することを生活習慣にしてこられた方は、その習慣を大切にしている。家具等は、今まで使用してきたものや、家族と相談し、自分の好みの座椅子を使用したり、お花を好きな方は、植木鉢等も置いたりとそれぞれの好みと工夫を大切に生活の場を作り上げている。また、仏壇を」置いて、毎朝手を合わせている方もいる。何よりも居室内の清潔が保てるように、掃除、衣類の整備等配慮をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・換気は季節によっての配慮を心がけている。外気温との差や、ご本人の一日の居室内での生活時間やリズムに気を配りながら、こまめに空調の温度調節を行っている。特に冬場における感染症の予防のためにも一人ひとりの状況に応じて、夜間の居室内の温度と湿度の調整への配慮を行っている。	○	建物の老朽化に伴うﾄｲﾚの換気がもう少し改善できるようにはたらきかけていく。
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・もともと「会社の寮」の改修しての建物内部ではあるが、できる限り安全で自立した生活が送れるように工夫はされている。利用者さんも満足されているが、改修後の7年近くが経過していることでの修繕、重度化に伴いさらなる工夫も要請されてきている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・お一人おひとりの今持っている力・・・理解する力、精神的な力、趣味等の力、身体機能の力はわかる力につながっているので、それぞれの力を活かしていけるように関わっている。利用者さんの中には「私は分からないから、あなたが覚えておいてくれれば、あなたに聞くことできて安心だから」と、わからないことを知っている力は、職員との気持ちの交流の中で、分かる力として大切にしている。	○	信頼関係の深まりが、言葉を超えて通じるものとなっていく。利用者さんのわかる力を受け止めるｽﾀｯﾌのわかる力、人間理解や認知症理解の力が不可欠であり、ｾﾝﾀｰ方式はその大きな介在となっているように思われる。そのための研修等への参加。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・1Fは自由に庭先に出て草花の世話、外のテーブルでのくつろぎ等をする等、内外の交流を身近に活かした生活を大切にしている。また、他ユニットの行き来も自由にでき、他階のベランダでゆっくりと景色を眺めて自然の広がりを身近に感じることで気持ちのリラックスをはかることもしている。		

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

長岡京ケアハートガーデングループホーム西山の郷（たけ）

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

何よりも「事業所の理念」が実践に結ばれ生み出される実態を大切にしています。ケアを通して「画一性, 押し付けの排除」「個人を尊重し、自分の一番居易い場所での生活を続けられるように援助し適応できる場所である」ことが明確化されていくことでもあると思います。常にこの原点に立ち戻ることをこころの構えとしています。
職員はご家族と共に利用者さんお一人おひとりの存在の尊厳を守る大切な助力者となり、生活や出会いを通して理解を深め成長させてもらう信頼感のつながりの中で道を開いていくことに努めています。その途上、お一人お一人が充実感と安心感、個性を輝かせながら、日々を大切に過ごされている今の実態だと感じています。